

提案団体名: 東急建設株式会社

○提案内容

| <p>(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙3の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください</p> | |
|--|-------|
| 技術の概要・実績等 | 技術の分野 |
| <p>【技術の概要】 自社が保有する技術（Teshub X：テシュブ エックス）は、気象庁が発信している気象データの1つである「高解像度降水ナウキャスト」の降雨予測データを利活用し、分布型流出モデルによりゲリラ豪雨時の都市の河川水位を、5分毎に1時間先まで予測するシステムである。 本システムにより、「安全安心な街づくり」に貢献できる。</p> <p>【実績】渋谷駅南街区プロジェクト新築工事 本システムを渋谷川に適用し、渋谷駅周辺の開発工事の安全管理に貢献できた。 予測した河川水位が管理値を超過する場合には、工事関係者へアラートメールの一斉発報や、現場内の回転灯の点滅を行い、従来より早い段階で河川増水情報を提供できた。これにより、人員、資機材の円滑な避難誘導を実現し、豪雨時の被害を最小限に抑えることができた。</p> | (2) |
| <p>(2)(1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ ※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください</p> | |
| 解決する課題のイメージ | 課題の分類 |
| <p>近年、地球規模の気候変動に伴い気温や海水温が増加に伴い、都市における局地的な大雨（いわゆるゲリラ豪雨）が増加傾向を示している。 従来の都市河川監視は、河川上流域に設置した水位計や流量計から得られるリアルタイムの情報をもとに避難の有無を判断したり、インターネットを介してリアルタイムに得られる降雨情報をもとに河川水位の変動を定性的に判断していた。 そのため、特にゲリラ豪雨の際には、都市河川の上流部の局地的な豪雨による河川水位の急激な上昇については予測が困難であり、都市型水害に対しては弱い部分があった。 本システムは、気象データの活用により、1時間先までの水位変化を予測できることから、都市防災に貢献できる技術であり、「災害に強い街づくり」の実現に寄与できる。</p> | (ウ) |
| <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本技術は、Web画面で情報を提供するシステムであるため、容易に特定多数で「災害リスク」を共有できる。 ・気象予測データを利活用することで雨量計や河川水位計などの観測機器の設置やメンテナンスにかかる費用が最小限に留めることができる。加えて、観測機器の故障やトラブルによるデータ欠損リスクも抑えられる。 ・本技術名の「Teshub」は東急建設の登録商標である。 | |

○部局名・担当者・連絡先（電話及びメール）

| 部局名 | 担当者 | 連絡先（電話） | 連絡先（メール） |
|-----------------------|------|--------------|--|
| 土木事業本部 技術統括部 環境技術部 | 高倉 望 | 03-5466-5183 | takakura.nozomu@tokyu-cnst.co.jp |